

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 医学部医学科

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	学部、研究科、病院、医療教育統合開発センターが一丸となって、本学を中心とするシームレスな医師のキャリアパスの確立を目指す。 優秀な入学者を確保するため、広報を強化し、入試志願倍率の維持を目指す。	学部、研修医、大学院までのシームレスな人材育成のため、医学部長、研究科長(開発センター長)、病院長(研修センター長)、教務委員長が協力して『医療教育統合開発センター医学教育部門・卒後臨床研修センター合同会議』を毎月開催している。 オープンスクールに積極的に参加して医学科の伝統と教育の特長を広報すると共に、予備校の主催する医進フェスタにも参加した。オープンキャンパスは会場に収容しきれないほどの高校生が集まり、京阪神はもとより、関東からの参加者もあった。 達成度： ④ 3 2 1
	研究科、病院と連携して、おかもまメディカルイノベーションセンターの設置を推進するなど、トランスレーショナルリサーチを推進する。 科研費及び外部資金のさらなる獲得を推進する取り組みを行う。 医学系の基礎系及び臨床系中期将来構想委員会の答申を受けて、医学系中期将来構想を検討する。	研究科に、OMIC事業の実質的な運営にあたる産学官連携センターを設置し、専任教授、特別契約職員助教等を配置した。工事は、予定通り、3月竣工、施設検査を実施し、4月分子イメージング部門等の事業を開始する。病院に設けられた新医療研究開発センターとも協力し、トランスレーショナルリサーチを一層強力に進めている。 研究開発委員会を中心に、専攻別の研究発表会を行って共同研究を推進すると共に、共同研究による科研費申請にはインセンティブを与える等の施策を行った。 基礎系及び臨床系それぞれの中期将来構想委員会で、種々意見交換を行って策定した答申案が教授会に提出された。今後は分野の再編統合計画の方向性を定めると共に、教育・研究・運営体制についての改革の方針をさらに詰めて実行する。 達成度： ④ 3 2 1
研 究	研究科、病院と連携して、女性医師等復職支援事業及び岡山県地域医療再生計画を推進するなど、地域医療の支援につとめる。 昨年度大幅に新規機器の導入が進んだ医学部共同実験室について、より一層の利便性、有用性に努め、外部使用も積極的に受け入れる。	岡山県による寄付講座「地域医療人材育成講座」を5月に開講した。現在、片岡教授、佐藤教授を中心に、将来の岡山県の地域医療を担う人材育成に関する研究を行うと共に、地域枠学生をはじめ、全学生を対象に地域医療教育、実習を推進している。女性医師等復職支援事業は、今年度からは研究科に「医療人キャリアセンターMUSCAT」を設置して実施し、県の地域医療再生計画でも支援を受けている。 共同実験室は、新たに導入された機器を含めて一層活発に利用されるようになった。運営会議で不断にサービス体制を検討、改善し、使用料も可能な限り低く抑えて利便性を向上させるように努めている。 達成度： ④ 3 2 1
	社会貢献	
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法：前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法：4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年：正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。